

■ 稲童掩体

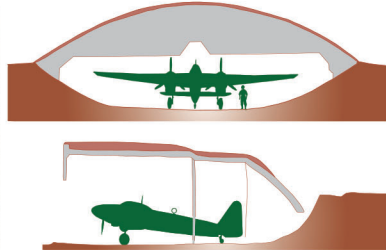
「掩体」とは、軍用機を敵の空襲から守る格納施設です。昭和19年(1944)8月頃から築城飛行場北側の稲童地区などに掩体が造られ、誘導路で飛行場とつながっていました。稲童地区には屋根のある「有蓋掩体」が8基、「コ」の字状の土塁で周りを囲み、軍用機を偽装網や樹木などで隠す、屋根のない「無蓋掩体」が20基前後造られました。戦後に多くが取り壊されましたが、今も数ヶ所に残っています。

稲童掩体は「一式陸上攻撃機」、陸上爆撃機「銀河」、夜間戦闘機「月光」などの双発機を格納するための大型の掩体です。鉄筋コンクリート製の天井や壁面には、コンクリート打設時に型枠として使用した板材やその痕跡、丘陵を掘り下げた土の形跡が残り、築造工程がうかがえます。コンクリートが固まった後、丘陵を床面まで掘り下げた土で、掩体の上を覆いました。

稲童地区は、掩体などの軍事施設があったため、幾度も空襲を受け、この掩体の壁面や安浦神社、近隣の墓地などに機銃掃射の弾痕が残っています。特に昭和20年(1945)8月7日の空襲による被害は大きく、格納されていた夜間戦闘機「月光」が炎上したと伝えられています。



掩体前の誘導路の煉瓦敷きと空襲跡
(整備前の発掘調査時)



軍用機の格納状況 ※機影は銀河

■ 稲童掩体史跡公園

稲童掩体は平成14年(2002)に市の史跡に指定され、発掘調査や補修工事を行って平成23年に史跡公園としてオープンしました。発掘調査で確認された煉瓦敷きなどの遺構はレプリカで復元表示しています。

公園内には、稲童集落で米軍機による激しい空襲を受けた痕跡を残すレンガ塀の一部や、終戦まで現在の仲津小学校にあった奉安殿(天皇の肖像写真や教育勅語を保管した施設)を移設保存しています。



被弾レンガ塀



奉安殿

稲童掩体の位置



アクセス

- JR九州・日豊本線「新田原駅」から車で約5分(徒歩約40分)
- 東九州自動車道「みやこ豊津IC」から車で約10分

■ お問い合わせ ■

行橋市教育委員会 文化課

〒824-8601 福岡県行橋市中央1-1-1
TEL 0930-25-1111 FAX 0930-25-1582



行橋市歴史資料館

休館：火曜
8/15、12/28～翌1/4

〒824-0005 福岡県行橋市中央1-9-3
TEL 0930-25-3133 FAX 0930-25-3133



福岡県指定史跡

海軍築城航空基地 稲童掩体

Inado bunker of Tsuiki airbase



- [指定種別] 県指定史跡
- [指定年月日] 令和5年3月28日
- [指定面積] 4,467㎡
- [所在地] 福岡県行橋市大字稲童
- [築造年代] 昭和19年(1944)8月頃
- [概要] 太平洋戦争後期、軍用機を空襲から防護するために、海軍の築城飛行場周辺に多数造られた掩体の一つ。双発の中型機を格納するための大規模な掩体。
[覆土幅:42m / 高さ:8.5m / 奥行き:23.5m / 入口幅:26.8m / 入口高:5.5m]
- [主要遺構] 中攻用有蓋掩体、煉瓦敷遺構、空襲跡

行橋市教育委員会

■ 築城飛行場

昭和14年(1939)12月、日本海軍が建設を開始します。福岡県東部のこの地域に飛行場が配置されたのは、瀬戸内海や関門海峡を控えた内海航路の要衝であり、洋上爆撃・雷撃訓練も容易であったことによります。

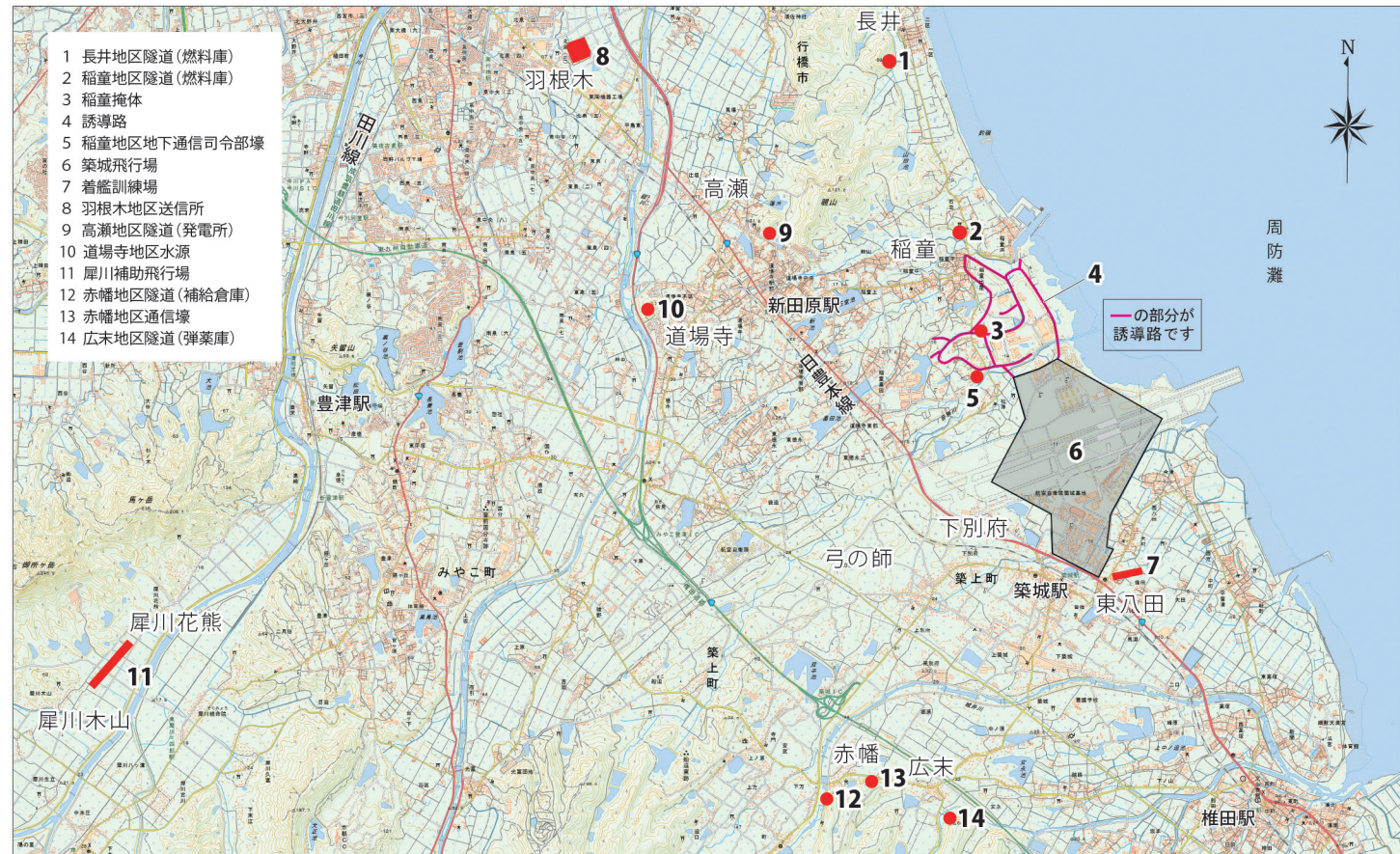
昭和17年(1942)6月のミッドウェー海戦の大敗によって、日本海軍は航空機や熟練搭乗員を多数失い、搭乗員の補充が課題となりました。築城航空基地は練成基地として、戦闘機搭乗員の教育や実機訓練を行いました。

昭和17年10月1日、飛行場の完成を待たず、初代築城海軍航空隊が富高(現・宮崎県日向市)に開隊します。翌年には富高から築城へ航空隊が移り、本格的に活動を開始しました。飛行場の面積は145万㎡で、滑走路は長さ1800m、幅50m、周防灘に向かって、西南西から東北東の方向に伸びていました。太平洋戦争末期には、特攻隊の出撃や中継の基地にもなり、多くの兵士がこの飛行場から飛び立って行きました。

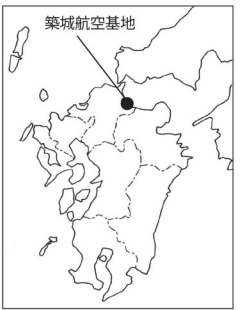
昭和20年(1945)8月の敗戦後、米軍に接收され、昭和30年(1955)から航空自衛隊の施設となりました。現在、飛行場や関連施設は行橋市、築上町、みやこ町にまたがり、「航空自衛隊築城基地」として利用されています。

■ 関連年表

昭和14年春	海軍が飛行場建設計画の通知を八津田村役場へ出す。
12月	築城飛行場建設が開始される。
昭和16年12月 8日	太平洋戦争がはじまる。
昭和17年 6月	日本軍、太平洋のミッドウェー海戦で大敗。
10月 1日	初代築城海軍航空隊が富高(現・宮崎県日向市)に開隊。
昭和18年 4月	初代築城海軍航空隊が富高から築城に移転する。このころ築城飛行場が完成したと思われる。
昭和19年 1月 1日	築城海軍航空隊が第12航空艦隊第51航空戦隊に編入。
2月	第553航空隊と改称され、北海道美幌に移る。
3月15日	筑波海軍航空隊が移駐し第2代築城海軍航空隊が開隊。
7月	サイパン島が陥落し、以後本土空襲が激しくなる。
8月頃	大都市において学童集団疎開がはじまる。築城基地周辺に掩体・誘導路が築造される。
9月頃	築上町広末地区の地下壕の工事が始まる。
昭和20年 2月20日	築城基地に特別攻撃隊(特攻隊)が編成される。
3月18日	米海軍の空母艦載機による基地への初空襲。築城基地から神風特別攻撃隊菊水部隊銀河隊の、陸上爆撃機「銀河」6機が特攻出撃。5機が未帰還となる。
4月 1日	米軍が沖縄本島に上陸。
5月14日	2回目の基地空襲(米空母艦載機による)。
6月23日	沖縄戦終結。
7月24日	3回目の基地空襲(米空母艦載機による)。
7月25日	4回目の基地空襲(沖縄の米第7航空軍による)。稲童の住人6名が亡くなる。
7月28日	5回目の基地空襲(米空母艦載機による)。
8月 6日	広島に原子爆弾が投下される。
8月 7日	6回目の基地空襲(沖縄の米第7航空軍による)。大規模な空襲で築城基地と周辺地域に大きな被害がでる。
8月 8日	7回目の基地空襲(沖縄の米第7航空軍による)。
8月 9日	長崎に原子爆弾が投下される。ソ連が参戦する。築城基地より天雷特別攻撃隊白虎隊出撃。
8月15日	終戦。
9月 2日	築城海軍航空隊、廃止となる。



築城基地関連施設分布図



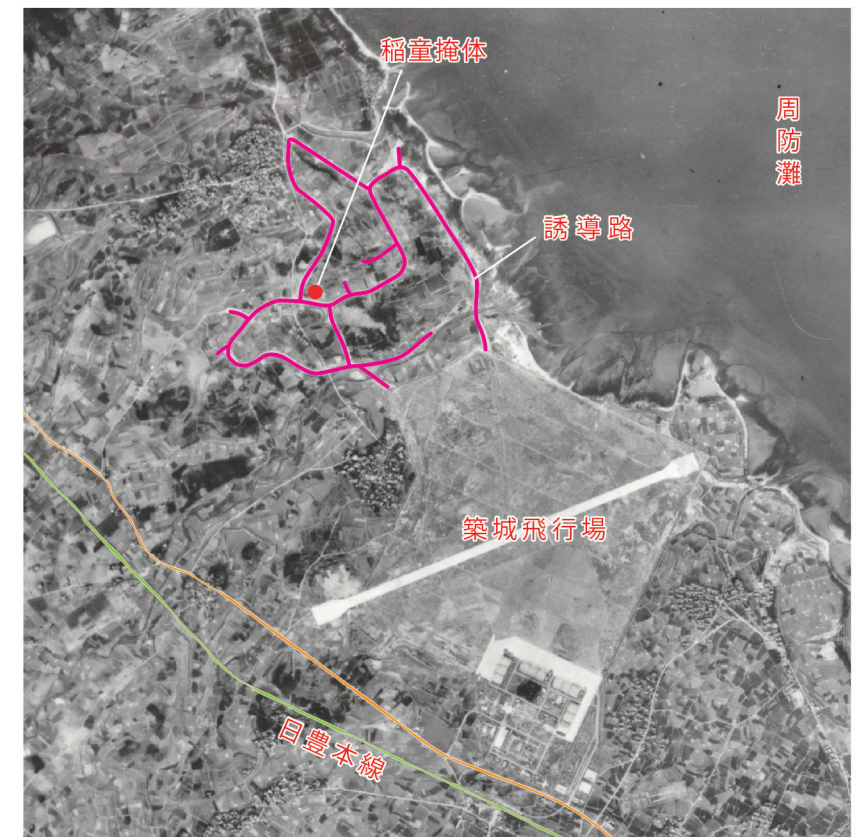
安浦神社の空襲跡



地下通信司令部壕



稲童・松原地区の戦争遺跡分布図



終戦後の築城飛行場 [米軍撮影航空写真] (1947年12月15日撮影)